

# あおい空 しろい雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース

2013年度第3号

平成25年3月30日発行

発行者 長野県手をつなぐ育成会

会長 中村 彰

380-0928 長野市若里7-1-7

長野県社会福祉総合センター5F

TEL 026-227-6811

FAX 026-227-6836

ikuseikai-nagano@cyber.ocn.ne.jp

## 長野県関係部局との懇談会報告

前号でもお知らせした通り 12月11日に県健康福祉部を始め県教委等関係部局との懇談会がありました。このように福祉事業の中核行政への直接的な働きかけは多くの親・家族の声を現行政に反映していくための大切な活動です。この機会を有意義にするために、日ごろから育成会へのご意見ご要望をお寄せください。以下主な要望と回答です。かなり簡略して要点のみ記載しました。

### 1 「福祉のまちづくり条例」における知的障がい者へのソフト面の拡充

- ・障がい者等に配慮したまちづくりに対する県民意識の高揚を図ることを目指す条例改正等の検討をしているとの回答

### 2 障害者権利条約批准に向けた国への働きかけ、障害者差別禁止法条例における知的障がい者への基本的な対応は？

- ・昨年に続き要望している。法制化の運びで進んでいるので内容が明らかになり次第県独自の対応が必要な事項には条例制定も含め効果的な実施方策を検討していくとの回答

### 3 知的障がい者の就学の課題

#### ① 副次的学籍の推進により地域とのつながりを深めて欲しい

- ・「長野県特別支援教育推進計画」において上記の件の推進について検討している
- ・地域小中学校の対象児童生徒にも、特別支援学校の教員が巡回し相談に応じていくことも検討しているとの回答（この計画への意見書も会として提示しました）

#### ② 特別支援学校のセンター化による地域学校の特別支援学級の質的強化を図って欲しい

また分校・分教室を開設して欲しい

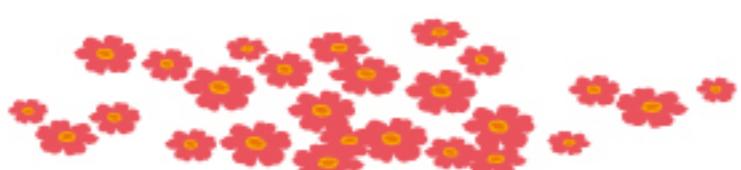
- ・センター機能のための環境整備、関係支援機関の専門性を活かした早期からの相談支援の体制整備に取り組んでいく
- ・新任担当教員研修や指導内容への情報提供、学級運営や個別支援計画に基づく指導推進への支援を行うとの回答
- ・個々の事業に配慮し県保有施設を活用するなど、小中学校の分教室については現モデル研究を継続し巡回相談に応じていく研究を進めるとの回答

### 4 知的障がい者の高齢化対策

#### ○ 障がい者施設と連携した特別老人施設が設置できる制度を考えて欲しい

- ・高齢化した知的障がい者への支援の在り方等について研究を始めたところで、県として可能な対応を考えていくとの回答

以上主な要望事項でした。



「あおい空しろい雲」は共同募金



のご協力で発行しています

# 「ぶれジョブ」が変わる！ 障害児者が普通にいる街の風景

最近耳にするようになった「ぶれジョブ」とはどのような事業でしょうか。

今回は長野県で一番最初に取り組んだ須坂市の活動を紹介しながら、

「ぶれジョブ」への正確な認識を深めたいと思います。

## 「ぶれジョブ」とは

平成15年岡山県倉敷市で養護学校教員の提案によって始まりました。障がいのある小学5年生から高校3年生（地域によって取組む学年はまちまち）が地元住民の協力（ジョブソーター）を得て企業などで週1回1時間のペースで6か月程度（これが原則）の職業体験をすることです。

学校・家庭・企業・地域住民が協力することにより、  
**★障がい児が地域の一員として認められる**

**★企業や地域住民は障がいに対する偏見や価値観を見直すきっかけとなる**

**★子どもを支援するための地域のつながりが再構築される…などの効果が得られます。**

ぶれジョブは子ども（障がい児）を中心とした豊かな住民関係を構築し、誰もが安心して暮らせる地域作りを目指す活動なのです。

日々この活動に携わっている須坂市手をつなぐ育成会の菅沼美知子さんと昨年活動を始動させ長野市全域の活動を目指している長野市手をつなぐ育成会の丸山香里さんからお話を伺いました。

### 須坂ぶれジョブ推進会議会長

**菅沼美知子さん（須坂市手をつなぐ育成会）**

須坂市は平成22年11月から活動を始動しました。活動の柱はあくまでも「子ども」です。子どもたちを取り巻くすべての環境が「ぶれジョブ」によって好転していく様子が私たちの活動の原点です。私がやってきたことは「子ども」たちから「やってみたい仕事」を聞き、その希望をもとに「企業訪問」し、「1週間に1時間」の枠内での職業体験を交渉しました。訪問先は「ビデオレンタル店」「和菓子屋」「スーパー」「美容院」「工場」などです。

子どもたちのお仕事の支援をするジョブソーターは知人や行政の広報・地域の新聞・ケーブルテレビ、コミュニティラジオなどのマスコミを使い活動の広報がてら募集しましたがなかなか集まらず苦心しています。ジョブソーターの役割は「見守り」です。

「ぶれジョブ」という言葉が色々連想させるので将来を見据えた職業訓練と勘違いをされる方もい

らっしゃいますが、決してそういう意味は持ちません。障がい児が仕事をする姿を通じて見守る周囲が豊かな変化を遂げていくのです。

月1回「子ども」「親」「企業」「ジョブソーター」が出席する「定例会」が「ぶれジョブ」活動の大切な位置づけになっていますが、そこで発表される体験談は感動ものです。互いを認めること、人としてのつながりを持つことに「障がい」を理解の障壁にはしません。親ですら気づかなかった子供の力、短所だとばかり思っていた子供の特性が長所であることに気づかされたりと、ぶれジョブは豊かな人間力の発掘の場となっているのです。そんな現場で活動できるのは私にとって喜びです。

### 長野市ぶれジョブを考える会会長

**丸山 香里さん（長野市手をつなぐ育成会）**

平成23年12月から須坂の活動をお手本にし「意欲のあるお母さん方」と取り組んできました。まずは熱心なお母さん方の地域からモデルケースとして昨年の10月から実際に活動を開始しています。平成23年11月から佐久市などでも活動が展開され、佐久市を拠点とする大手スーパーでも受け入れ企業となっていることもあって、企業訪問は意外にスムーズでした。

私が感動したのは「仕事はバックヤードで…」という本社の指示を受けていた担当者が「子どもの特性」を見抜いてくださり「私たちはお客様商売だから彼の明るさを是非地域の方に知ってもらいたい」と売り場での職場体験となったこと。

初めは「落ち着きがない子」と心配していたお母さんもスーパーの担当者の機転に「欠点だとばかり思ってきたけど明るく元気という長所と捉えてくれた」ことに「家庭」でも「学校」でももたらせない成長をぶれジョブが叶える。更に地域の方の優しさ、ともに働く店員さんたちの思いやりを引き出すその威力、このことはとてもとても大きな発見と感動でした。

私自身も単に「職業体験によって子どもの成長を促す」だけではない「ぶれジョブの魅力」を感じました。

左から菅沼美知子さん、塙田なおみさん（長野市育成会会長）、丸山香里さん



### お話をうかがって

とてもさわやかな印象のお二人のお話でした。共通する思いは、実践する現場での力「障がい者理解」は難しい講演会や学習会とは違った、ありふれた日常の中にあって、そこに住もうすべての人が同じ時を共有し互いに触れあうことから自然発的に心で感じる共感が大切なんだということ。今や「ぶれジョブ」は全国組織展開しており、県下でも行政の後方支援（主に広報を主とし、資金的支援は各地方自治の補助金、県の元気作り支援金などを利用しています）していく活発な動きを見せています。長野県では須坂市・長野市以外でも上小地域・茅野市・佐久市で活動を展開しており2月16日佐久市で長野県ぶれジョブの集いも開催されました。他県では育成会が中心になって取り組んでいるところもあります。

前号で特集しました「障がい者虐待防止法」、今後法律化されるであろう「差別禁止法」により、日

本の国家的な枠組みも「障がい」を特別な事例とはしない世界の流れに組していく姿勢となっています。社会が人間の尊厳を尊重し、いわれのない差別を許さない円熟した社会へと進んでいくためにも、当会の活動もより一層手をつないで、心を紡いでいきたいものです。

**長野県は「ぶれジョブ」を応援しています**  
**長野県次世代サポート課長 小嶋瑞紀**

本年度、長野県の事業の一つに「ぶれジョブ啓発事業」があります。これは県内では須坂から始まったぶれジョブを応援して全県にもっと広めたいという阿部知事の強い願いのもとに次世代サポート課として取り組んでいるものです。その取り組みの一つとして啓発リーフレットを作成しました。

このリーフレット中で知事は下のようなメッセージを寄せています。県では来年度もリーフレットの配布、研修会の実施を予定しています。

### 「ぶれジョブ」に子どもたちの夢を乗せて

障がいのある子どもたちが、生まれ育った地域の中で「笑顔」で「元気」に暮らし続ける。こんなすてきな町をつくるのが「ぶれジョブ」です。

「ぶれジョブ」の活動は、参加した子どもたちを笑顔にするばかりではありません。子どもたちを支えるサポーターや受け入れ側の企業やお店、施設の皆さん、そして、地域の皆さんをあたたかい気持ちにしてくれます。

今こんな「ぶれジョブ」の活動が、県内でしだいに広がっています。

障がいのある子どもたちの活動が地域のみんなの笑顔を育む。

この子どもたちを中心とした笑顔の町。それは、とても素晴らしい町づくりではないでしょうか。

みなさん、こんなすてきな「ぶれジョブ」を応援してください。



# 平成24年度 ふれあい支援事業報告

今年度は県内各地で18事業が開催されました。

参加者総数1,013人！！すごい！！

ありがとうございました。

あなたの写真はあるかな～？

町村	開催日	参加者数	内 容	
上伊那	06月16日(土)	30名	群馬バスハイク	群馬サファリパーク
中野市	08月26日(日)	46名	ホテルタングラム斑尾	
上水内郡	09月01日(土)	30名	天狗の館	
松本圏域	09月02日(月)	145名	松本養護学校	スポーツレクレーション
塩尻市	09月23日(日)	60名	松本養護学校	スポーツレクレーション
塩尻市	10月13日(土)	50名	バス研修会	名古屋方面
安曇野市	10月20日(土)	31名	安曇野市	豊科ボウル
飯山市	10月27日(土)	19名	長野市	サンアップル
松本圏域	11月10日(土)	55名	松本市 波田地区	リンゴ狩り
全県	11月11日(日)	68名	麻績村	チャレンジながの (料理教室)
松川村	11月17日(土)	35名	静岡県浜松市	みかん狩り
駒ヶ根圏域	11月18日(日)	106名	駒ヶ根市ふれあいセンター	アニメ映画鑑賞会/交流会
飯田・下伊那	11月18日(日)	65名	飯田市	オオクラボウリング場 西木村福祉センター
佐久圏域	11月24日(土)	72名	佐久市	佐久プラザボウル
長野市	11月25日(日)	65名	長野市権堂	カラオケまねきねこ
飯綱町	12月09日(日)	29名	飯綱町アップルミュージアム	クリスマス会
塩尻市	12月15日(土)	80名	塩尻市総合文化センター	クリスマス会
山ノ内町	12月15日(土)	27名	山ノ内町文化センター	クリスマス会

# 研修会報告

## 中南信研修会報告

平成25年2月17日。豊丘村保健センターには、150名を超える方が参加し来賓・講師・役員スタッフ加えると170名を超える研修会となりました。



講師には、全日  
本手をつなぐ育成会機関誌「手をつなぐ」の編集者の又村あおい氏を迎えて、「知りたい！障害福祉の制度と使えるサービス」と題して講演をしてもらいました。

講演の冒頭、又村さんから「今日せっかく来て下さったお父さん！残念でした。」「あおいさん」が来て話が聞けるなら、俺が行くと頑張ったお父さん、今日は出番のお話もありますのでがかりせずに聞いて下さい」とユーモアたっぷりに自己紹介がされました。

講演は、「学齢期・成人期に利用することができる福祉サービスについて」「今から保護者（家族）の方々ができることは何でしょうか？」「お父さん、出番ですよ！」と3つのテーマで話されました。将来を見据えながら今を大事に活動しましょう。以前は支援の「主役」だった親は、今後は「名脇役」の立場でサポートしていきましょう。と結ばれました。

午後は、大槻正春さんの司会でパネルディスカッションが行われました。発言者の片桐さんからは、「地域で共に生きる」と題して、諸先輩方の事業所立ち上げの思い、日々の活動の事など、信濃こぶし会の歩みが話され、そして今行っている支援事業についても説明がありました。母親の立場で池内さんは、今後の要望として相談窓口の拡充、流行性の感染症が発生した場合などの緊急時に預けられる施設を（児童の病後児保育のようなもの）作って欲しい。地域によって資源のバラつきがあるので、どこでも同じ支援が受けられるようにして欲しいと発言がありました。発言者松下さんからは、父親が中心となって何かやらねばと「ハッピ-?はあと」の活動を始めたこと。また将来を考えると、児・者一貫した事業所を使うのが近道かもしれない。成人になってから成人の問題をやっては遅いと先輩の保護者に言われたので小さいうちに色々始めていると話されました。

続いて会場から障害基礎年金は20歳からの支給。養護学校を卒業してからの2年間はどうしたらよいか？等の質問も出る中、又村氏より助言がされるなどして、終了しました。



## 東北信研修会報告

去る2月24日（日）雪降りの中、中野市民会館にて東北信研修会が行われました。池田中野市長のご挨拶の後、基調講演に日本相談支援専門員協会副代表の福岡寿氏より「障害者自立支援法から障害者総合支援法へ」のテーマで障害者福祉制度と使えるサービスについて、ご自身のこれまでの豊富な経験をふまえ市町村や県、国【厚労省】の事情にも精通された貴重なお話をからめて、わかりやすく解説くださいました。

心に残ったポイントは以下の通り。

☆制度だけを知ってもダメ。

事業所や事業内容は100あったら100通り

☆自立支援協議会が重要。

☆当事者団体の役割（親の会、育成会として）は

皆の総意を公のものとして出していくこと！

☆福祉の本丸は『障害者権利条約』の批准で自分の努力だけでは生きづらさがある人達すべての為のものである。

☆個別支援計画作成のキーマンは相談支援専門員で、どれだけ質の良い相談員やシステムを作れるかが課題。

午後のディスカッションでふれた親ばなれ・子ばなれの話で大切なことは、サービスに本人を合わせるのではなく、本人を真ん中に、それぞれ関わる者が輪型で、ゆるやかな自己決定を支援していく！という重要なことも確認できました。

通所か入所しかない時代…たかだか20年前まで…それから現在までの流れを早足（口）で、楽しく笑いありのいわゆる福岡サン節を堪能させていただきました。

意思決定支援はチャレンジ→体験→チャレンジ→体験の繰り返しで「イヤだ」を本人がやつと言ってくれたらすばらしいと思いました。

【長野市 岡野さゆり】



## わたしたちの育成会

岡谷市手をつなぐ育成会からの  
活動報告



土日を利用して保護者の皆さんにボランティアとしてお手伝い頂きながら、本年で 35 年目となる名称「こだま教室」での学習会を主体に、ふれあい参加事業、生活訓練事業「希望の旅」、納涼祭など子供中心行事のほか、保護者対象に研修会など本年は総会も含め 27 回の活動を行ないました。9月の希望の旅は東京浅草寺に参拝、天空の散歩は叶いませんでしたが、スカイツリーを仰ぎ隅田川の川下りをし、鴨川に泊まり翌日は鴨川シーワールドでイルカショーを楽しみ帰路につきました。

当会の自慢すべき特徴は「こだま教室」です。この「こだま教室」では市内の小中学校の先生方がボランティアでこの学習会をお手伝いいただいていることです。むろん市の教育委員会の協力がなければできませんが、快く引き受けて頂いており子供たちも楽しみにしています。こうして各学校に関わっていただくことで障がい者への理解も高まっています。今後地域で安心して暮らしていくためにもまず地元の方々に理解していただくことが一番大切だと感じています。今後もこの活動をさらに充実させていきたいと思っています。

宮坂 久雄



### 長野県手をつなぐ育成会 50 周年記念大会に向けて

長野県精神薄弱者育成会が昭和 37 年に結成、昭和 39 年に第 1 回県大会が開催されてから今年は 50 回目を迎えます。これを記念した大会を有名人の講演などの企画をしながら飯田市を会場に開催します。同時に、記念誌を発刊します。現在、編集委員会において内容を練っています。多くの会員の皆様に寄稿をお願いする予定しております。また、写真（大多数はモノクロームになってしまいます）も募集します。文面に合わせたものや歴史上重要な記念になるものなどお寄せいただきたいと思います。

### 編集後記

もう 3 月、なんとまあ月日の経つ早さよ…政権が変わり打たれた 3 本の矢に、お財布の口が撃たれたかのようにガソリン代・灯油代の出費がかさむ今日この頃。3 本の矢効果として内需拡大の原動力、市民のサラリー（死語？）は小泉政権時代からの低空飛行に歯止めをかけてくれるのか。たわいもない主婦の嘆きは、日々のおかず反映され、ＴＰＰだ、原発再稼働だと国民の思いはいったいどこへの気分です。猛烈な厳しい寒さの冬がいつ春にその席を譲るのか…みなさまもう少しの辛抱ですがくれぐれもお体ご自愛ください。慣れな編集作業ですが足らぬ頭と力で頑張りました。お読みくださりまことにありがとうございました。

担当 長野市手をつなぐ育成会

\*お詫び シリーズ「みんな知ってる？！ 育成会の活動内容について」は、次号以降で掲載の予定です。ご了承下さい。